

平成 18 年 8 月 22 日

委員長コメント

【平成 18 年第 2 四半期】

- 1 今回の報告期間は平成 18 年 3 月 27 日から平成 18 年 7 月 2 日までの約 3 か月である。
法定報告に基づく新規 H I V 感染者報告数は 248 件（うち男性 226 件、女性 22 件。前回報告 198 件）で過去最高となった。前年同時期の新規 H I V 感染者報告数は 171 件である。
一方、新規 A I D S 患者報告数は 106 件（うち男性 97 件、女性 9 件。前回報告 92 件）であり、過去二位となった。前年同時期の新規 A I D S 患者報告数は 89 件である。
- 2 感染経路別に見ると、新規 H I V 感染者では同性間性的接触によるものが 160 件（全 H I V 感染者報告数の約 65%）と最も多く、そのうち 152 件が日本国籍男性であった。
また、異性間性的接触による新規感染者報告数は 53 件（全 H I V 感染者報告数の約 21%、うち男性 37 件、女性 16 件）である。
一方、新規 A I D S 患者では同性間性的接触によるものが 40 件（全 A I D S 患者報告数の約 38%）、異性間性的接触によるものが 40 件（全 A I D S 患者報告数の約 38%、うち男性 36 件、女性 4 件）となっている。
年齢別では、新規 H I V 感染者は 20～30 代が多数（約 66%）を占めるが（前回約 77%）、40 代～50 代以上が占める割合が増えている（約 31%）（前回約 22%）。新規 A I D S 患者は 30～50 代以上に広く分布している。
要約すると、感染者・患者とも 91%以上を男性が占め、その中でも同性間性的接触による感染が約 62%を占めている状態であるが、40 代と 50 歳以上の増加が特徴的であった。
- 3 平成 18 年 4 月～6 月末までの保健所における H I V 抗体検査件数は 20,369 件（前年同時期 16,398 件）、自治体が実施する保健所以外の検査件数は 5,604 件（前年同時期 4,402 件）、保健所等における相談件数は 39,317 件（前年同時期 34,644 件）となっており、保健所及び保健所以外における検査件数、保健所等の相談件数はいずれも前年同時期より増加した。
- 4 平成 18 年 1 月から 6 月の献血件数（速報値）は 2,480,063 件（前年同時期 2,725,863 件）で、そのうち H I V 抗体・核酸増幅検査陽性件数は 48 件、10 万人当たりの陽性人数は 1.935 件（前年同時期 1.321 件）であった。
前年同時期と比較し、陽性率が高かった。
- 5 この四半期における新規 H I V 感染者報告数及び A I D S 患者報告数はいずれも前回報告を超え増加傾向にあり、その合計数は過去最高となった。また、保健所及び保健所以外における検査件数、保健所等の相談件数においては前年同時期より増加した。新規 H I V 感染者報告数を感染経路別に見ると、男性同性間性的接触は依然半数を超え、若年層に H I V 感染が広がっているものの、40 代、50 歳以上にも増加が認められる。若年層の感染者及び患者報告数の増加よりも、40 歳以上の感染者及び患者報告数が大幅に増加したことは利用者の利便性に配慮した検査・相談事業を推進した結果によるものと思

われ、H I V検査普及週間など、検査体制の整備について一定の成果が認められる。

各自治体においては保健所等を中心に、利用者の利便性（夜間・休日等）に配慮した検査・相談事業を推進することが重要であり、H I V感染の早期発見による早期治療と感染拡大の抑制に努める必要がある。国民はH I V・A I D Sについての理解を深め、積極的に予防に努め、H I V抗体検査の早期受診に努めるべきである。また、各自治体（特に重点都道府県等）においては、今回の発生動向を考慮しつつ、エイズ対策推進協議会を開催し、予防も含めエイズ対策計画を早急に策定の上、より一層のエイズ対策を推進されたい。